# 「日本の急性期病院を対象とした下気道感染症のデータベース構築と再発性下気道感染症に対する緑膿菌活性を持つ抗菌薬の経験的使用の有効性の検討：多施設後ろ向きコホート研究」へのご協力のお願い

代表者　　所属：昭和大学医学部内科学講座リウマチ膠原病内科学部門　職名：教授　氏名：矢嶋 宣幸
当院担当者　所属：津山中央病院　総合内科・感染症内科　職名：部長　氏名：藤田　浩二

1.　目的・方法

慢性閉塞性肺疾患（COPD）増悪や細菌性肺炎のような下気道感染症は、しばしば再発します。再発性の下気道感染症では、喀痰から緑膿菌が見つかることがよくあります。また、喀痰から緑膿菌が見つかることは、下気道感染症の予後の悪化と関連していると報告されています。そのため、国際的なガイドラインでは、再発性の下気道感染症（COPD 増悪や細菌性肺炎）に対して、緑膿菌に効果のある抗菌薬を使うことが推奨されています。しかし、現時点では、これらの抗菌薬の使用が再発性の下気道感染症の予後を改善するという証拠はありません。

われわれの過去の研究と日常の臨床経験から、再発性の下気道感染症では、緑膿菌に効果のある抗菌薬は重症例や治療失敗例にのみ経験的に使用すべきであり、すべての患者に使用するのは過剰であるという仮説を立てました。本研究はわれわれの仮説を検証するために 2001 年 1 月から 2023 年 3 月までの期間に対象の医療機関で入院された患者さんの電子カルテ情報とレセプト情報をもとに実施されます。この研究は、広域抗菌薬の適切な使用に関する重要なガイドラインとなることが期待されています。

さらに、下気道感染症の個別化医療の促進のために、上の研究で収集されたデータを用いて、以下の付随研究を行います。

1. 医療・介護関連肺炎における耐性菌保持リスク因子と抗菌薬選択について
2. 尿中肺炎球菌抗原の診断精度と医師の抗菌薬選択の変容・費用対効果について
3. 過去の緑膿菌検出までの期間と今回の入院の緑膿菌検出との関連の評価
4. 関節リウマチを基礎疾患にもつ下気道感染症の予後予測因子と抗菌薬選択について
5. 大気汚染物質曝露と下気道感染症の重症度との関連
6. パーキンソン病を基礎疾患にもつ下気道感染症の予後予測因子と抗菌薬選択について

2.　研究期間

研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2025 年 12 月 31 日まで

3.　研究の対象および研究対象期間

2001 年 1 月から 2023 年 3 月までに下記の医療機関で下気道感染症のために入院となった患者さん．昭和大学病院、あすかい病院，安房地域医療センター，一宮西病院，沖縄中部病院，大阪大学，加古川中央市民病院，京都市立病院，慶応義塾大学，神戸市中央市民病院，国保旭中央病院，済生会熊本病院，済生会横浜市東部病院，自衛隊中央病院，白河厚生総合病院，諏訪中央病院，多摩総合医療センター，津山中央病院

4.　調査票等

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させて頂きます。あなたの個人情報は削除後匿名化し、個人情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には最新の注意を払います。

性別、生年月日、患者住所、関節リウマチなどの入院時併存症、入院後発症疾患、検査結果（末梢血白血球数、血清アルブミン値、血清 CRP 値、尿中肺炎球菌抗原）、入院前・入院中の経口・点滴の抗菌薬，その他薬剤（ステロイド・免疫抑制剤，制酸薬，昇圧薬，吸入薬），医療処置（気管内挿管，人工呼吸器使用，透析），退院先，退院時転帰，呼吸機能検査結果，喀痰培養結果

5.　情報の保護

調査により得られたデータを取り扱う際は、被検者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないようにします。

個人情報は完全に秘匿されておりますのでご安心下さい。もし患者様自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には研究対象としませんので下記までご連絡下さい。

津山中央病院　病院長　　林　同輔

連絡先：電話 0868-21-8111（担当：総合内科・感染症内科　藤田　浩二）